

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300106		
法人名	学校法人 鈴鹿文化学園		
事業所名	グループホーム 愛すみよし苑		
所在地	三重県鈴鹿市住吉1丁目23番8号		
自己評価作成日	平成26年8月4日	評価結果市町提出日	平成26年11月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490300106-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 9 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園、学校、幼稚園、商業施設、病院には、利用者が歩いて行ける程の距離にある、住宅街で静かな環境にめぐまれている。地域の方が花や採れたての野菜を届けて頂ける環境にある。人的環境として、昨年末から職員の離職もなく、職員が認知症介護に日々自己研鑽している。又、隣接する医療福祉専門学校の介護福祉科の生徒の実習、地域の中学生や高校生の職場体験、各種ボランティアも受け入れている。当苑の理念でもあるが、家庭的な雰囲気の中で馴染みの人間関係を維持しながらその人らしく生活していく事を支援していきます。安心して穏やかな生活を営んで頂ける様に言葉かけに配慮しながら、利用者の人権と尊厳を最大限に尊重しています。毎日、笑声の絶えない苑です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

車の多い幹線道路から1本横に入り、閑静な住宅街の中に母体の学校法人があり、隣接して事業所がある。玄関入り口にひまわりの花が植えてあり、大きな黄色の花びらが訪れる人を迎えてくれる。管理者・職員が一体になって、理念とおりの家庭的な雰囲気づくりをしており、家族からは「アットホーム」である、「入所してから性格も別人のように穏やかになった」、「ゆっくり時間が過ぎていく」などの言葉をいただいている。職員同士も和やかで、連携もとれており、1日中楽しそうな会話と笑い声のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい所に掲示している。朝礼時には、職員が理念を唱和している。理念が実践につながるように、会議で話し合ったり、朝礼で施設長や管理者から話をしている。	職員は毎日の唱和により理念を頭の中にたたき込んでいるが、実際に理念がケアに反映されているか、管理者は意識して職員の実践状況を見ている。訪問日は、職員・利用者共に笑顔が多かった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地区行事の案内を頂くので機会があれば参加している。散歩に出ると、挨拶を交わしたり、花を下さる方がある。地域の中・高校生の職場体験を受け入れている。近所の喫茶店に出かける事がある。	日常の散歩での近隣との交流や、自治会を通しての地域との交流は積極的に行っており、地域に溶け込んでいるとの感触を管理者は持っている。地域の方が介護相談に来られることも有り、今後は更なる地域との親交を強めることに力を注いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の認知症対応通所介護もあり、地域の方の相談も受けている。日常的に見学を受け入れている。職員の向上心もあり、認知症理解は全員ができている。職員が地域で話をすることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回定期的に開催しており、開苑以来続けている。苑での取り組みや利用者の動向を報告し、意見の交換をしている。防災やサービスについてのアドバイスを頂いています。	出席者も固定メンバー以外に、実習中の学生が参加したりして、定期的な開催も順調に行われている。消防団経験者がメンバーにいたので防災に関して注力してきた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時広域連合との連絡を行い指導を受けている。運営推進会議の議事録を提出している。運営推進委員会には、元介護相談員、現介護相談員に参加して頂いている。	日常的に広域連合と情報交換をしており、各種問題についての相談も出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を組織しており、身体拘束だけでなく、精神的な拘束、高齢者虐待等についても、会議で議論がなされており、独自の勉強会や外部の勉強会にも積極的に参加している。書籍や新聞での記事を朝礼で日常的に話している。	管理者をトップに身体拘束だけでなく精神的な苦痛や虐待についても勉強し、絶対に拘束は行わない姿勢を持つ努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業者内で虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。風通しをよくして何でも話し合える職場づくりをしている。職員も虐待があってはならないと認識している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度についての知識の必要性を感じており、社会福祉協議会や包括支援センターの講演会に参加。利用者の家族関係を職員は理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学して頂き、情報公開の閲覧をすすめている。契約時には、利用者や家族の思いを聞き、説明を行い理解して納得して頂いてから、契約している。不安や疑問に対しては、常に回答出来る様に窓口をもうけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情の窓口を明記し口頭において説明している。家族の面会時、サービス計画書の作成時の相談、モニタリングの場において、利用者や家族の要望意見をきいている。	利用者とは日常の会話で、また家族とは面会のときや顔を合わせた時に意見をいただいているし、介護計画書作成段階のモニタリング時にも意見をいただく機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長との面談や定期的な会議、朝礼の場で職員の意見や提案を取り上げ話し合う事がある。年2回の職員の自己評価表で施設長や管理者に意見。提案する機会もある。	朝礼のときや全体ミーティングで意見や提案を話し合う機会を持っており、職員意見でリハビリ用に歩行器を改造している。また他人の前では言い難い不満等については、個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事上の悩み等が蓄積してモチベーションが下がらない様に運営者や管理者が話を聞くようにしている。職員が資格を取得しやすいように配慮し、取得した時は給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外での研修会へも職員の希望に応じて参加出来る様に各種案内を掲示したり、参加を促す声をかけている。母体の学校の介護福祉科の教師に依頼し勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会参加を奨励している。地域密着連絡協議会、グループホーム協会に入会している。同業者との情報交換や施設見学に行っている。「良い」と思った事は、会議で提案し検討し実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時、本人や家族に生活歴、職業歴、病歴、生活のリズム、要望、希望等を聞いて、フェイスシートやセンター方式に記入している。サービス利用前に情報を職員が共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時、聞き取りをしている。センター方式を、家族に持ち帰って記入して頂く時がある。サービス利用前に情報を職員が共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に事前面談で自施設で対応出来る事と出来ない事を説明し、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を1人の人間として尊重し、人生の先輩、同時代を共有しているという意識をもって日常生活の中で教えて頂いたり、役割をもって頂き支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に参加できる行事を企画している。面会時にケース記録を読んで頂いたり、電話、メール等で情報交換して相談させて頂いて本人を支える為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人に訪ねて頂いたり、ご協力の元、田畑や実家など馴染みの場所や自宅に行っている。法事や墓参りなど、馴染みの方と会える場所に行かれる。	知人の訪問を受けたり、家族と一緒にの実家訪問や墓参り、法事等が多い。	利用者個々の馴染みの人や場など、入居前の当たり前の暮らしを、入居後も継続できることが重要である。受身の関係継続でなく、積極的な継続努力を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染みの関係になっており、面会の家族も他利用者に話かけて下さる。居室に招かれ並んで話をしている。他者を気遣いながら、支えあっている様子がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方はない。転居された方、亡くなられた家族との交流はある。転居先に職員が面会にいった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や記録、センター方式を活用し、希望や意向の把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な時は家族と共に聞き取ったり、相談させて頂いている。	常日頃の会話の中で出てきた思いや意向を、「話し言葉そのまま」をセンター方式の「私の姿と気持ちシート」に書き込み、職員みんなで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式、フェイスシート、日々の記録を読む事で職員同士共有できている。面会時の家族との会話で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の言動や様子を細かく時系列でケース記録に記録して。職員が共有する事により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族、計画作成者とモニタリングを実施している。担当職員は、モニタリングとアセスメントを毎月実施記録し個人ファイルに残す。医師、薬剤師、看護師にも相談し、介護計画をたてている。	利用者の日常会話の一言ひと言や思い、家族の希望等を基に、担当者が下書きを作り、職員全員でモニタリングを実施し、介護計画を作成している。医師、看護師にも相談し、必要に応じて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の記録を個人ファイルに残し、気づきや工夫を申し送りノートに残したり、朝礼での情報を共有している。メモ等で計画作成者に職員から、提案や工夫した事の連絡・報告がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は可能な限り対応出来るように、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する専門学校の介護福祉科の先生生徒、定期的な音楽ボランティアが来苑。花卉や盆栽、メダカ等を自由に見学させて頂ける場所もあり、季節を感じながら、喜怒哀楽が表現できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やかかりつけ医の往診が月に2度ある。神経内科への受診時には家族に記録の要約を説明したり、家族の了承の元直接FAXで報告相談している。	入居時にかかりつけ医について本人・家族と十分話を詰めており、5人が従来のかかりつけ医である。往診は両医とも月2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、併設の認知症対応通所介護に週2回午後から出勤している。申し送りノートや気づきを伝え情報を共有している。隣接する、専門学校の看護師にも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療を要する利用者には、管理者や職員が毎日病院に出向いたり、家族の了解の元、共に、医師が説明を受け、リハビリの様子等みせて頂き指導を受けている。入院時はフェイスシート等で情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前面会時に重度化した場合や終末期のあり方を家族に聞いている。医療行為はできないが、主治医の指導の元で、家族と共に看取りをしたことがある。看取りの研修会に参加している。	重度化や終末期について、入居時に家族と話し合いをしているが、同意書などは作っていない。一人の看取りの経験はあるが、現在の医療体制や職員の精神面から、看取りは今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応マニュアルや、急変時や事故発生時の連絡網は作成されている。特に夜勤者に急変時対応の本を読んでもらっている。勉強会で「急変時の対応」を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練消火訓練は実施している。夜間の避難訓練を実施した。自治会や周辺の方にも協力をお願いしている。学校関係者の協力体制もある。会議で防災テストを実施したり、水コンロ食料医薬品を備蓄して職員に意識づけをしている。	運営推進会議のメンバーに元消防団の方がおり、その方の指導のもとに年2回訓練を実施し、事業所内の非常ベルは、屋外へはほとんど聞こえないという課題もつかんでいる。地域の協力や備蓄も完備している。	近い将来、大規模地震が予想されている。職員が一人しかいない夜間発生を予想し、職員が落ち着いて動けるよう、日頃からの訓練をお願いしたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には、誇りやプライバシーを損ねる事のないように、十分注意をはらっている。日常的に朝礼や会議で人権と尊厳について話している。	特に注意していることは「声かけ」であり、トイレ誘導は他の利用者には判らないようにしている。また、驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない、の「三ない運動」をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人が要望や希望を表現できやすい環境を工夫している。本人の個性にあわせて自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に意思決定して頂いている。「強制・制止」をせずに利用者個人の自己決定を尊重して、個人の能力や希望に応じた支援をこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の方に定期的に理容師の出帳サービスを受けている。家族の協力で美容院に通う方もいる。服装は本人に選んで頂いたり、職員と相談される方もいる。衣服の補修は職員がしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割として食事の下ごしらえ、台拭き食器拭き、下膳等を能力にあわせて職員と共にして頂いている。食欲のない方には、お好きな物を工夫している。おやつは職員の手作りが多い。おやつ作りの企画も利用者に好評である。	食材は業者に届けてもらっているが、調理は3食とも職員が作っている。野菜を切ったりする下準備やテーブル拭き、食後の片付け、洗った食器を拭くなど、利用者も手伝っている。食事介助の職員が同席しているが、他の職員は別という課題もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食記録している。職員に栄養士の有資格者がおり、目を配っている。個人にあわせ、麦茶、緑茶、スポーツ飲料、OS-1等で水分確保に努めており、水分摂取を促している。1日の水分提供量は最低1500ccを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室やホールの洗面台で実施。義歯の方は、夜間も消毒液につけている。歯磨きの習慣のなかった方が毎食後するようになり、家族が驚いておられた例があった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便通表を作成して時間で記入している。個別に排泄パターンをつかみ、トイレでの排泄や自立ができるように支援する事の大切さを認識している。	完全に自立の方が5人、オムツ外しの支援もしているが尿意があり、自立でも安心のためにリハビリパンツ利用の方もいる。薬に頼らないで便通できるよう、食に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に頼らずに排便出来る様に食事、バナナ、牛乳、ヨーグルト等で工夫している。腹部マッサージや運動で自然排便に取り組み結果をだしている。夜勤者の申し送りで3日以上排便確認できていない方を報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回以上入浴して頂くようにしている。時間は午前中が多いが、排泄後要望があれば時間帯以外の入浴も可能で本人に判断して頂いている。浴槽に入ることが困難な利用者は機械浴を利用して頂いている。ゆず風呂、しょうぶ湯、ヨモギ湯等で楽しんで頂いている。	一般の浴槽と機械浴槽があり、週3回午前中が多い。入浴嫌いの方もいるが、タイミングの良い声かけ努力から、今では毎回入浴している。ゆず・菖蒲の他、入浴剤も利用し、お湯の色が変わる楽しみも作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は利用者のペースに合わせているが、昼間の傾眠が目立ち夜間の睡眠に影響が出そうな時は、レク等の参加を促し安眠の支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴り、日付、期間が確認出来るようにしている。確実な服薬が行えるようにチェック表を記録、与薬者が押印している。主治医の指示で薬の変更があった時は申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野をいかして、漢字・計算・ことわざ・格言・クイズ等に積極的に参加して、楽しんで頂いている。食事の準備・モップかけ・食器拭き等家事を分担して自信を持って生活して頂くように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者とは、散歩に出かけたり、近くの商業施設に買い物に出かけている。お花見などの外出活動に家族に同行して頂くなど協力を得ながら支援をしている。近所にある、喫茶店にケーキを食べに行ったりしている。	近くに公園もあり、お茶・お菓子持参の散歩が多い。車を利用した季節の花見はもちろん、食事や買い物目的の外出も多く、家族の協力を得ながら全員での外出を楽しんでいる。今月はコスモスを見に行く行事ちらしが掲示してあった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出来る利用者はおらず、医療費・散髪代などのお金は金利者が金庫で保管管理している。買い物に行った時は可能な限り利用者が支払出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの要望があれば、随時提供している。個別のノートに書かれたメッセージを面会時読んで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に作った季節感のある作品や歌を楽しむ歌詞を貼ってある。行事の写真日常の微笑ましい写真もある。頂く季節の花々も飾っている。真夏の西日が当たる居室には、スダレを掛けている。	玄関には金木犀が花瓶にさしてあり良い香りがしている。居間兼食堂は天井が高い吹き抜けになっており、狭さを感じさせない。壁には利用者手づくりの大きな季節の作品が掛けてある。また行事のカラー写真が大きくA4サイズに引き伸ばされ掲示しており、テーブルに座っていても見えるのが良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置してくつろいで頂いている。新聞・本・雑誌を置き居室へ持って行き読まれている。居室へ話相手の方を招かれ、並んで会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での馴染みの品や家具を持ち込んで頂き居心地の良い居室が確保出来る様に配慮している。自分の作品や家族の写真を貼り自宅での生活に近づけ安心して暮らせる様にしている。	フローリングの部屋と畳の部屋があり、ベットを利用しない方もいる。部屋の掃除は職員だが、利用者本人が丁寧に畳を拭かれる時もある。壁には写真や自分の作品が飾られており、家具やソファ、椅子のある「自分の部屋」づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が認識しやすい様に表札を掲示することで混乱がないように配慮している。各所に手すりを設け安全な生活ができるようにしている。		